

全木連時報

10月25日(日曜日)
(第619号)(毎月25日発行)
平成21年(2009年)

発行所
社団法人 全国木材組合連合会
編集長 尾 蘭 春 雄
東京都千代田区永田町2-4-3 ☎(3580)3215
URL http://www.zenmoku.jp



木材産業シンボルマーク

昭和33年12月15日第三種郵便物認可

定価 年500円

【全木連時報】の購読料は年会費に含まれています。

第44回全国木材産業振興大会開催

新たな木材利用への挑戦で木材産業の創造的再興

「木づかい」でCO₂の削減・豊かな生活へ 東京都に全国から参集

全木連と全木協連が主催する第四十四回全国木材産業振興大会は、「新たな木材利用への挑戦で木材産業の創造的再興」「木づかい」でCO₂の削減・豊かな生活へをメインテーマに掲げ、十月二十三日に東京都の「東商ホール」で開催された。協力は社団法人東京都木材団体連合会。第一部の大会議事

ご挨拶

大会会長

社団法人 全国木材組合連合会
会長 並 木 瑛 夫

本日にここに、第四十四回全国木材産業振興大会を、関係者のご尽力によりこのように盛大に開催できますことは、大きな喜びであり我々の誇りとするところでありま

す。また、ご多忙のなか、農林水産大臣、国土交通大臣はじめ、多くのご来賓のご臨席をいただいたことに對し厚く御礼申し上げます

全国木材産業振興大会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。本日にここに、第四十四回全国木材産業振興大会を、関係者のご尽力によりこのように盛大に開催できますことは、大きな喜びであり我々の誇りとするところでありま

では、別掲の大会宣言を満場一致で決議した。第二部は、パネルディスカッション「木の町・木のいえ推進と木材業の将来」。第三部の表彰式では、退任団体長表彰、木材産業功労者表彰、協同組合事業功績者表彰が行われた。この後、懇親会に移り、盛況のうちに閉幕した。(詳報次号)

宣言決議

一、地域経済を担う木材事業者が希望を持つて事業活動が持続できるよう、一層の景気対策、中小企業対策などの充実に取り組もう
一、地球温暖化防止に資する、住生活空間への木材利用の一層の拡大、木質バイオマスの活用・普及

ガンは「新たな木材利用への挑戦で木材産業の創造的再興」であります。昨年第四十三回熊本大会以降、経済社会は世界的な経済・金融危機に見舞われて景気悪化を続けた激動の一年間でありました。このところ一部において景気持ち直しの動きも伝えられますが、未だ出口が見えないというのが実態と思われま。木材産業につきましては、住宅着工戸数がかつてない低水準で推移し、これに伴う木材需要の大幅減少により地域経済の一翼を担う木材業界の事業活動は停

目次

- 一面 第四十四回全国木材産業振興大会を東京で開催 大会宣言を決議しアピール 大会会長挨拶
- 二面 JAS工場認定 おしらせ
- 三面 振興大会栄えの受賞者
- 四面 景況調査 開催案内

滞し続け深刻度を増している状況にあります。国におかれましては、景気対策等に一層の力をいれたいただくよう、祈るような思いで強く要請する次第であります。さて、木材産業は、低炭素化社会の実現に大きく貢献する木材の利用推進や地域経済の振興、そして「木の文化」の伝承・発展に重要な役割を果たしています。業界が、このような重要な使命・役割を十全に果たしていくには、活力ある業界の維持発展が必要です。このことを関係機関、多くの人々

にきちんと理解していただきながら、業界自身として「木材産業の再興」に向けて新たな事業展開ステージに向けて様々な取組みを進めていくことが必要であります。

「木材産業の再興」と申しまして、必要の大幅冷込みの中で課題は少なくありません。木材利用につきましては、住宅着工戸数が人口・世帯数の推移等からかつてのような着工戸数への回復は期待し難いといわれている中で、木材の健康や環境によいとの普及をしつかりと広めていくことはもとより、「木のまち・木のいえ推進」や「長期優良住宅推進」など住生活空間、事業活動・エネルギー等多くの分野において「木」木質資源の利用促進・需要掘起しのため限らない挑戦が必要です。その際、木材・建築そして消費者との連携・協同に木材業界が積極的に参画していくことが大切です。併せて、木材マーケットの確保にきちんと対応できる業態・製品供給体制を整えていくこと、特に品質・性能の明確なJAS製品、乾燥材の安定供給体制整備は焦眉の急の課題です。全木連といたしましても、このような課題解決に全力を挙げ取り組んでいく考えであります。

本年の12月には気候変動枠組条約締約国会合 COP15がポスト京都議定書の決定を巡って開催されることになっていきます。これに向けてわが国政府は温室効果ガス排出の90年度比25%削減を目指し

ていくことを世界に表明しています。炭素吸収・固定源の役割を果たす森林整備、木材利用はこれまでに以上に評価・位置づけられて政策に反映されていくことを強く期待するものであります。これらに関連した排出量取引や環境貢献の「見える化」取組み制度などへの木材業界の事業活動としての参画、そして合法木材の普及・供給促進などに積極的に対応していくことが重要となっております。

木材産業は、このような諸課題にきちんと対処して業界体質改善に果敢に取組んでいくことにより、木材産業の再興の展望が切り拓かれるものと確信いたす次第であります。このようなことを進めていくには、ご列席の関係行政機関、関係団体の皆様のお力添えが必要であります。これまでも増してご指導、ご支援の程を切にお願い申し上げます。全木連といたしましても皆様方と力を合わせて数々の取組みに全力を尽くして参る所存であります。

最後に、本日、栄えある表彰を受賞される方々には、長年にわたるご精進とご労苦に対し深甚なる敬意を表しますとともに、心からのお祝いを申し上げます。

また、本大会の開催に当たりご支援、ご協力いただいた東京都木材団体連合会、東京木材問屋協同組合他、関係者の皆様方に改めて厚く御礼申し上げます、私の挨拶といたします。

お知らせ

公益法人の行う共済事業について

平成十七年の保険業法の改正により共済事業は、いずれも保険法の規制対象となったが、特別法によらないものとして公益法人が行う共済については従前のまま取り扱われてきた。今回の公益法人制度改正により、移行後の新法人については保険業法の規制対象になる。共済事業を継続する場合は、①小額短期保険業者に登録②既存の保険会社に対して共済事業を譲渡③保険会社との間で当該共済事業に類似した内容の団体保険を締結し継続するなどの対応が必要となる。

JAS工場認定・全木検

平成二十一年十月九日付
 (株)松岡製作所木工事業部(広島県広島市) 全数検査・下地用製材、広葉樹製材
 (株)門田家具工場(広島県府中市) 全数検査・下地用製材、広葉樹製材

開催案内 2009文教施設フォーラムセミナー2 「木材を活用した学校施設づくり講習会」

文部科学省は、地方公共団体、木材関連企業、設計者等を対象に、木材を活用した学校施設づくりの取組みを支援するため講習会を開催する。2009文教施設フォーラムセミナー2「木材を活用した学校施設づくり講習会」がそれ。その開催案内の中で、「木材は建築物の部材として、柔らかく温かみのある感触を与えたり、室内の湿度変化を緩和させ快適性を高めるなどの優れた性質がある」と言われており、学校施設への木材活用は、豊かな教育環境づくりを進める上で大きな効果を期待できます。しかしながら、木材の活用にあたっては、建築コスト、維持管理の

手間、防火上の対策などへの懸念の声が聞かれ、地域材の供給・流通システムや、地方公共団体としての木材利用推進体制の充実、耐震補強なども課題となっております。」としている。そのような課題を解決するための一助とすべく講習会が開かれる。講習会では、木材活用に関する施設紹介や専門家による特別講演、地方公共団体の取組紹介、木造学校施設の視察が行われる。

日時、場所等は次のとおり。

▼佐賀会場(佐賀市文化会館)
 平成二十一年十一月九日(土)十日
 特別講演者 長澤悟「木の学校づくり意義・課題と進め方」

企業経営に安心を提供します
 全木連グループの各種保障制度

おかげさまで35年
 中型グループ

従業員のために 中型グループ	総合賠償補償制度	第三者への事故対策に
	任意労災保障制度	労働災害への対策に
経営者のために 総合保障プラン	木退共	従業員の退職金の準備に
	積立終身	経営者の退職金などの準備に

ケガ・病気になるなどの備えに

全国木材協同組合連合会
 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-3
 TEL 03-3580-3215(代)



前大会以降 退任団体長表彰

全木連会長感謝状
山形 安部政昭
新潟 諏方富作
福井 久保新六
和歌山 中谷新弘
大分 新貝淳親
鹿児島 佐々木幸久
プレカッタ 齋藤陸郎

第44回全国木材産業振興大会 栄えの受賞者(敬称略)

全木協連会長感謝状

山形 安部政昭
新東京 阿部信義
新潟 諏方富作
福井 久保新六
和歌山 中谷新弘
島根 文野隆弘
山口 今野昭夫
大分 新貝淳親

木材産業

功労者表彰

林野庁長官感謝状

宮城 幸田一男
秋田 西村茂健
千葉 小高富作
新潟 諏方富作
富山 島田一弘
岐阜 金子勝三
岡山 矢野弘三
広島 小林亮介
香川 松高亮廣
愛媛 渡部照章
宮崎 川添恵一郎
全木連 福原俊雄
全木連 宮北嘉則
岩手 森谷潤
宮城 今野光男
秋田 大坂真一
秋田 沓澤一英

福島 鈴木裕一
茨城 石川毅
栃木 樽見正衛
群馬 田村欽勇
埼玉 金澤貞夫
千葉 関根進
東京 高橋新作
富山 青木勇蔵
石川 伊藤玄二
福井 庄司良雄
新潟 山田実
山形 菊地邦夫
福島 折高啓一
長野 伊藤久明
岐阜 三輪文男
静岡 伊藤善次郎
愛知 伊藤亮一
滋賀 大平剛士
三重 栗田正章
三重 白井秀弥
滋賀 森本直志
大分 谷正一
兵庫 八木輝行
和歌山 岸本英夫
鳥根 花畑重靖
岡山 桑原三平
広島 高岡哲郎
山口 堀川保幸
徳島 林克彦
香川 和善行
愛媛 赤松孝明
徳島 下田義一

視察校 佐賀市立小中一貫校北山校(施設一体型) | 市内の地元産木材を活用した事例
▼愛媛会場(愛媛県民文化会館)平成二十一年十一月十七日(十八日)
特別講演者 東京大学生産技術研究所 准教授・腰原幹雄「木造校舎の耐震診断・耐震補強」
視察校 八幡浜市立日土小学校 | 木造校舎を耐震改修した事例
▼秋田会場(秋田キャッスルホテル)
平成二十一年十一月二十六日(二十七日)
特別講演者 秋田県立大学 木材高度加工研究所 教授・飯島泰男「地域産木材を学校建築に使う意味と効果」
視察校 能代市立浅内小学校 | 地域と地域技術の活用により単価を抑えた事例
申し込みは、文部科学省の申込受付ホームページ(2009文部施設フォローラムホームページ)へ。

全木協連会長表彰状

高知 川井喜久博
福岡 長澤貞義
長崎 岩永俊幸
熊本 那須主隆
宮崎 田本和秀
沖縄 真玉橋政始
パーク 中川幹彦

協同組合事業功績者 及び優良組合表彰

林野庁長官感謝状

秋田 協同組合秋田県銘木センター
栃木 田村英二
栃木(原木) 村井宏二
岐阜 杉山永喜
静岡 望月信幸
愛知 梶浦好弘
兵庫 毛利和輝
岡山 岡本信和
熊本 池部正信
鹿島 児玉篤臣

東京(材商) 平野公一
東京(木場製材) 網中勝
福岡 櫻井満雄
長野 櫻井満雄
岐阜 杉山義博
静岡 鈴木俊博
愛知 紅谷幸政
三重 中井俊博
三重 森本紘司
岡山 竹下三樹夫
岡山 水島佳治
広島 小田基治
徳島 中嶋修三
高知 島崎廣
熊本 中野進夫

飯島晨邑 菅野恒雄
小池一三
山口國男 竹内晋輝

景況調査＝全木協

21年9月分集計表 ()内は実数

〔流通部門〕 モニター数101 回答数62 回収率61%

当月の状況

販売量	増加32% (20)	変わらず52% (32)	減少16% (10)
仕入量	増加32% (20)	変わらず53% (33)	減少15% (9)
販売価格	上昇 2% (1)	変わらず88% (55)	下降10% (6)
仕入価格	上昇 6% (4)	変わらず86% (53)	下降 8% (5)

来月の見通し

販売量	増加32% (20)	変わらず60% (37)	減少 8% (5)
仕入量	増加26% (16)	変わらず58% (35)	減少16% (10)
販売価格	上昇 8% (5)	変わらず87% (53)	下降 5% (3)
仕入価格	上昇18% (11)	変わらず74% (45)	下降 8% (5)

3か月後相場予想	強 含 み	保ち合 い	弱 含 み
米 材	16% (9)	79% (43)	5% (3)
南 洋 材	8% (4)	86% (43)	6% (3)
北 洋 材	21% (11)	68% (36)	11% (6)
国 産 材	9% (5)	73% (41)	18% (10)
建 材	22% (11)	66% (32)	12% (6)

乾燥材取引の頻度	増 加	変 わ ら ず	減 少
	20% (12)	80% (47)	0% (0)

〔製造部門〕 モニター数115 回答数78 回収率68%

当月の状況

販売量	増加34% (26)	変わらず49% (38)	減少17% (13)
仕入量	増加39% (30)	変わらず40% (31)	減少21% (16)
販売価格	上昇 4% (3)	変わらず82% (63)	下降14% (11)
仕入価格	上昇23% (18)	変わらず72% (55)	下降 5% (4)

来月の見通し

販売量	増加33% (25)	変わらず56% (42)	減少11% (8)
仕入量	増加25% (19)	変わらず64% (48)	減少11% (8)
販売価格	上昇 3% (2)	変わらず92% (69)	下降 5% (4)
仕入価格	上昇21% (16)	変わらず72% (54)	下降 7% (5)

3か月後相場予想	強 含 み	保ち合 い	弱 含 み
米 材	30% (10)	64% (21)	6% (2)
南 洋 材	35% (9)	61% (16)	4% (1)
北 洋 材	33% (10)	54% (16)	13% (4)
国 産 材	19% (12)	62% (39)	19% (12)

プレカットの動向

受注後、加工までの待ち時間	1ヵ月以内	1ヵ月	1ヵ月以上
	75% (9)	17% (2)	8% (1)

【開催案内】

活かして使おう

国産材フェア

全木連は、十一月十一日(十三日に東京ビッグサイト(東京国際展示場)で開催される「ジャパンホーム&ビルディングショウ」の会場内において国産材製品生産・供給十事業者の協力を得て、住宅建築関係者、一般消費者等を対象に、「活かして使おう国産材」をテーマとしたフェアを開催する。また、日本能率協会との共催により、木の家づくりについての基

景況調査
九月分概評

九月は、流通・製造部門とも販売量、仕入量は前月より増加した。また、販売価格、仕入価格は、変わらなかった。ほぼ、前回調査の予想のとおりの結果であった。十月については、流通・製造部門とも販売量、仕入量は増加の見

通しである。また、価格については、販売価格、仕入価格は変わらぬの見通しである。三ヵ月後の相場予想については、流通・製造部門とも、北洋材は強含み予想、国産材は保ち合い予想である。米材、南洋材については、流通部門では保ち合い予想、製造部門では強含み予想である。また、建材は強含み予想である。流通部門における「乾燥材取引の頻度」については、乾燥材の一定の取引は定着していると見られるが、全体の傾向と同様に「変わらず」の回答が主体となっている。プレカット工場の操業状況については、やや回復傾向が見られる。

平成21年6月からスタート!

フォレストサポート保証



- ◎ 経営支援のためのセーフティネットとして、運転資金は最大8,000万円まで無担保保証が受けられます
- ◎ 連帯保証人は組合・会社の場合、代表者1名でもOK

保証のご利用の限度額を引き上げました



- ◎ 保証限度額を4億円まで(会社の場合)
- ◎ 無担保保証の限度額を2億円まで etc

林業・木材産業事業者の方々に必要な事業資金の債務保証を行います

独立行政法人 農林漁業信用基金 (林業部門)

〒101-8506 東京都千代田区内神田1丁目1番12号(コービル11階)
TEL 03(3294)5581 FAX 03(3294)5595 URL www.affcf.com